

巻頭言



取締役社長 稲村純三

新年明けましておめでとうございます。皆様方には佳き新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃より「明電時報」をご愛読いただき厚く御礼申し上げます。

昨年のわが国の経済は、2008年のリーマンショックによる落ち込みから一部の業種で業績の回復が見られるものの、公共投資の削減や為替の一段の円高進行により、全体の景況感は依然として厳しいまま推移いたしました。重電業界におきましても、国内・海外市場における競争激化により、経営環境は予断を許さない状況が続いております。このような情勢の中、当社グループでは、全社的な原価低減、固定費削減に努めると同時に、中期経営計画「POWER5」で掲げる成長・新事業の強化に向けた施策に取り組んでおります。

今年は、2009年度からスタートした中期経営計画「POWER5」で事業基盤構築を目標に最初の2年間に設定したフェーズⅠの期間から、ここで構築した事業基盤を生かし、より高い収益を獲得するフェーズⅡに移行する節目の年であります。

フェーズⅡでは、POWER5で重点分野とした5つの成長・新事業、3つの既存重電事業の新規展開を更に加速させてまいります。具体的には、電気自動車用モータ・インバータ事業、電力変換製品事業、電気二重層キャパシタ事業、風力発電製品事業、真空コンデンサ事業の5つの事業と、既存重電事業の水処理事業、電鉄事業、動計・搬送システム事業の3事業に資源を集中してまいります。

今回「平成22年の技術成果」号をお届けするに当たり、研究・開発の成果に加え、社会システム、水処理、産業用機器・システム、メンテナンスの4分野の新技术・新製品開発成果の一端をご紹介します。

社会システム分野では、海外及び国内メガソーラー向け太陽光発電用PCS、列車接近警報システム、電力貯蔵リチウムイオン電池用交直変換装置などをご紹介します。

水処理分野では、上下水道局広域統合監視対応監視制御装置、レトロフィット対応監視制御装置の更新、セラミック平膜を用いた下水処理システムなどをご紹介します。

産業用機器・システム分野では、電源回生コンバータ、低損失真空固定コンデンサ、EV・HEV用評価システム、超高容量低慣性ダイナモメータ用インバータ、無人搬送システムなどをご紹介します。

メンテナンス分野では、設備診断技術の高度化、活線診断、レトロフィットハードディスクユニットの開発などをご紹介します。

以上、平成22年における新技术・新製品の一端をご紹介しますが、当社はおお客様の視点に立った製品の提供を目指して更なる技術の研さんに努める所存です。皆様方の引き続きのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。